

I-1
 特定領域研究「我が国の科学技術
 黎明期資料の体系化に関する調
 査・研究」(略称「江戸モノづく
 り」)についての報告

酒井シヅ

平成十三年度から文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(「江戸のモノづくり」)が認められた。この特定領域研究の目的は江戸時代を中心に、明治初期に至るまでの我が国科学技術黎明期の実態を明らかにすることにあり、なお、本研究の特徴は従来の文献研究より一歩で、文献資料と器物資料を車の両輪のごとく照合させて、黎明期の科学技術の実態を明らかにすることを狙いとしていることにある。そのためにまず現存する関係資料を可能な限り調査し、目録を作る。それを従来のように特定の専門研究集団に限らず、関係ある研究者に広く公開し、互いに専門知識を交換することで、実態をより

深く、広い視野から検討する。

本特定研究の組織は、総括班のもとにA01からA06までの計画研究があり、それぞれに公募研究が付属する。なお、計画研究のそれぞれが目指すところは以下のとおりである。

A01は器物・文献資料の専門的基盤整備

A02は器物・文献資料の横断的基盤整備

A03は器物・文献資料の相関関係の研究

A04は器物資料の保存・修復・復元・再生研究

A05は知的支援システム

A06は内外特定コレクションの総合的調査研究

医薬関係は平成十四年度においては、以下に示した研究班が組織され、以下の課題で調査研究を行った。

1、総括班調査

2、研究項目番号A01「江戸・明治初期の輸入医療薬品・医療機器の実態調査と現存資料の総目録の作成」(略称「輸入医薬品、医療機器」代表者 Wolfgang Michel)

3、研究項目番号A01―公募研究「江戸時代の医学

本草学資料の整理と研究」(略称「江戸本草資料調査研究」代表小曾戸洋)

4、研究項目番号A05「科学に関する文献資料と実物資料を総合的に扱えるコミュニケーションの研究」(データベース班 代表月澤美代子) からなる。

以上の研究班が本年度十二月までに行った調査研究は以下の通りである。

- 1、「輸入医薬品・医療機器」調査班による調査は①(佐賀市)野中家、②(中津市)村上資料館、③(武雄市)武雄歴史資料館、④(鳥栖市)中富記念くすり博物館、⑤(岐阜県)内藤記念くすり博物館、⑥(新潟県)金井北条家、⑦(長野県)木祖村野中資料館、⑧(新潟市)日本歯科大学新潟分校医の博物館、⑨(長崎市)県立美術館、⑩(つくば市)国立衛生研究所、⑪(富山市)郷土資料館、金岡邸、広貫堂資料館、民族薬物資料館、⑫(東京都)国立医薬品食品衛生研究所、国立科学博物館、⑬(長崎市)長崎大学医学部、⑭(名古屋市)東山植物園、⑮(会津若松市)御薬園、会津武家屋敷、⑯(京都市)国際日本文化研究

センター宗田コレクション、⑰(大津市)滋賀医科大学

以上の資料館や個人の所蔵の医薬品、医学書、本草関係書籍について調査し、可能な場合は薬品の化学分析を行い、それらの比較研究、文献の比較研究を行っている。

- 2、「江戸本草資料調査研究」は以下の著名な文庫の医学本草関係資料の調査と目録作成を行った。①修琴堂大塚敬節文庫目録(北研)、②岡田昌春文庫目録(北研)、③橋本龍雲文庫目録(北研)、④長谷川弥人文庫目録(慶応)、⑤大神薫文庫目録(名古屋市大図書館)

3、「データベース班」では、器物史料のデータベース作りを目指しているが、その具体的な資料として九州大学医学部所蔵の器物史料の画像を用い、データベースを試作。同時に福井歴史博物館所蔵のキュンストレーキ調査と同関係資料の調査を行っている。また、別に武田科学振興財団の杏雨書屋、京大富士川文庫、東大鸚軒文庫、慶大富士川文庫、順天堂大学山崎文庫など所蔵の医薬関係図書目録を作成

(順天堂大学医学部医史学研究室)